

# ● 市民主体のまちづくり活動の活性化に資するアイデア一覧

※★がついたものは予算措置がしているもの

## 交流・連携

- ①市役所をもう一段階開けた場所にする
- ②行政でできないことや苦手なことを、地域や市民に知らせる
- ③参画に対してのイメージを変える、負担感を減らす
- ④西脇大会議(しゃべり場)★
- ⑤あったらいいな、こうならいいなの希望的観測会★
- ⑥市民と市職員の交流会の開催★
- ⑦子ども達が行政に興味を持てるような仕組み
- ⑧声を集める
- ⑨目安箱の設置
- ⑩SNSの活用
- ⑪市民と市職員の交換日記
- ⑫ラジオ番組の開始★
- ⑬知り合いリレー(テーマを設け、市民一人ひとりにつなげていく)
- ⑭職員が研修を兼ねて地域に入る

## 情報発信

- ①市民のまちづくり活動の一覧を載せる
- ②まちづくり団体の活動を市広報に載せる
- ③市民グループのイベントを市広報や防災無線でアピールする
- ④学校にも情報提供する
- ⑤校区外の交流を増やす
- ⑥「まちづくりのとびらをあけてみたら」をどれくらいの人が認知しているかを検証する
- ⑦地域自治協議会の活動紹介動画を作る

## 子ども・親子

- ①地域の子ども会を活性化
- ②子どもが参加したくなるイベントを地域で開催
- ③企画から参加できるイベントを地域で開催
- ④理想の西脇市を親子で考えるイベントの開催★
- ⑤市全体で同年代の子ども同士や親子のつながりをつくるイベントの開催★
- ⑥子育て中(乳幼児)の人がどのように過ごしているのかを参考にする

- ⑮学校へ市職員が出張し、子どもや教員、保護者を巻き込んだスクールを開催する
- ⑯普段と逆の状況となる、職員が市民に相談をするイベントの開催
- ⑰市民が市に対する不満や悩みを伝える会の開催
- ⑱何万人以上の声を集めると実現しますというアトラクションのようなイベントを開催する★
- ⑲まちづくり団体の交流会の開催★
- ⑳全地区の若年層が交流できる機会の提供★
- ㉑共通の目標を持ったグループの洗い出し
- ㉒まちづくり団体のマッチングイベントの開催★
- ㉓他グループへの要望が出せるサイトの設置★
- ㉔楽しいイベントへの誘い合い
- ㉕地域とまちづくり団体のコラボ
- ㉖活動への参加や手伝いを募集
- ㉗他の地域のイベントにボランティア参加
- ㉘ゆるい形での意見交換の場
- ㉙井戸端会議の実施

## コミュニケーション

- ①ホームページ等でまちづくり活動についてのアンケートを実施
- ②気軽にまちづくりに関する相談ができる公式ラインの開設
- ③Web版のまちづくり掲示板を製作
- ④西脇市の良いところを市民に見つけてもらう

## 運営支援

- ①ふるさと納税をまちづくり団体に分配
- ②地域自治協議会の運営セミナーの開催
- ③西脇市のまちづくり方針の発表会
- ④市内全地区で地域自治協議会ができるよう設立支援を行う
- ⑤学校の授業等で主体的まちづくり教育を行う

## まちづくりを楽しむ

- ①まちづくりポイントカードをつくり、まちづくり活動で貯まるポイントに応じ特典を与える★
- ②参画と協働のまちづくりのキャッチコピーを考える★
- ③この行事がまちづくり活動だと伝えるためのもの(シールなど)を配る★
- ④まちづくり活動に携わる方の賞(まちづくりアワード)をつくる★
- ⑤まちづくり活動に何人誘ったかを競う
- ⑥「まちづくりのとびらをあけてみたら」を活用した啓発資材(年齢やシーン別)を作成(まちづくりに関する気運の醸成)

## 地域と繋がる

- ①飲食店で耳にする愚痴や井戸端会議レベルの会話に対しても相談できる窓口や店をつくる★
- ②地域の方が見守ってくれるような関係をつくる
- ③顔見知りになる
- ④「こんにちは」という挨拶のほか、「困ったことはない?」という言葉で挨拶にする
- ⑤花いっぱい運動や溝普請などの地域活動の目的を清掃活動のみに留めず、交流できるような要素を加える

## 行政との協働

- ①市職員や市議のまちづくり団体への出向

## その他

- ①プライバシーの尊重も大事だが、個人情報の把握もいざというときの為には大切である
- ②イベント参加や広報に協力してくれた方に記念品をプレゼントし、同じ想いを持った方の見える化を行う★
- ③市民と行政が連携していくには、お互いの苦手な部分を共有し、その苦手な部分に対し、連携して取り組むことが面白いと感じてもらえるアプローチを行政が行う必要がある
- ④連携を深めていくには、市民の声を集めることが大切である